

第9期北海道総合開発計画キックオフイベント概要（釧路開発建設部）

～輝く釧根の未来を目指して～

開催概要

- ◎日時：令和6年11月12日（火）14:30～17:00
- ◎会場：釧路市観光国際交流センター1階大ホール（釧路市幸町3-3）
- ◎参加：約470名（会場約370名、Web参加約100名）
- ◎プログラム
 - 第9期北海道総合開発計画の紹介 釧路開発建設部長 坂 憲 浩
 - 北海道総合計画の紹介 釧路総合振興局長 木 村 英 也
 - 基調講演「新たな北海道総合開発計画 釧根からの展開に向けて」
北海道文教大学地域創造研究センター長 小 磯 修 二 氏
 - パネルディスカッション「ダイバーシティが導く釧根の未来について」

- ☆コメンテーター 小 磯 修 二 氏
- ☆コーディネーター 今 川 勝 照 氏
北海道新聞釧路支社委員長
- ☆パネリスト（五十音順）※所属先は抜粋
 - 根室市観光協会事務局員 稲 田 美 樹 氏
 - （一社）くしろまちづくり研究所代表理事 迫 田 栄 重 氏
 - 合同会社MY style 代表 前 原 元 美 氏
 - （株）MOKA 代表取締役 森 崎 三 記 子 氏



【基調講演】&
【コメンテーター】
小磯 修二氏



【コーディネーター】
今川 勝照氏



パネルディスカッションの様子



森崎 三記子氏



前原 元美氏



迫田 栄重氏



稲田 美樹氏

主な発言内容

<基調講演>

- 北海道開発政策の意義を、戦前、戦後を通じた歴史的な文脈で理解することが大切。その伝統、経験を生かし、科学的な分析力による長期的な政策、戦略提起を。
- 釧根地域の地域間収支（1998年と2015年表）を比較すると、「観光産業」の進展により自立的な産業構造に転換してきている。観光を軸にした幅広い産業群の展開を目指し、インフラ整備、食文化の魅力創出などによる総合的な発展を期待。

<パネルディスカッション>

- インバウンド対応時に「言葉の壁」がある。宿泊施設や飲食業等でも対応可能な多言語マップや、情報発信、ガイド等の必要性を感じている。
- イベントにおける学生の参画は、交流人口を増やすカギ。釧路のスケール感から学生や長期滞在者が「挑戦するなら釧路」と言ってくれている。
- 保育と発達支援事業に取り組んでおり、ママ達が新しい活動に挑戦できるような環境を整備しつつ、釧路を子育てしやすい街にしていきたい。
- 女性の就労や地域の雇用に関わる取組を進めており、人づくり、地域づくりを経営方針とした株式会社MOKA を立ち上げた。
- 公共交通と高規格道路による移動時間短縮により、釧根の観光が幅広く充実する。
- 釧路に投資したい長期滞在者もあり、行政機関と連携しながら進めたいと思うが、学生から非常に良いアイデアが出されることも多く、学生と地域を繋げたい。
- 保育の雇用と人材育成に苦勞しており、保育士自身がやりがいを感じられる場が必要であり、官民共創により取り組んでいきたい。
- 女性を支援することは、男性や高齢者や学生、障害者、外国人など多様な方々と関わることになる。人と人を上手く繋げることで様々な課題解決に近づく。
- 主役は観光で訪れるお客様。魅力ある観光資源を守りつつ、近隣地域との広域観光を活性化することで、充実した価値のある釧根地域の観光となる。
- 長期滞在を発展させ、釧路で副業2拠点を進めることで経済を活性化したい。
- 子供達の多様性を活かして育てるのに、自然豊かな釧根地域は適地であり、この地域で子育てし定住してもらうことが将来の地域の力を引き上げる。
- 主役は自分自身。自分自身が居たい居場所づくりのために活動すると、まわりがみんな元気になる。
- 「ないものねだり」から、あるものをいかに使う「地域資源の再発見」という視点が重要。改めて女性の力がダイバーシティの中でも地域社会の大きな力になると感じた。地域政策を進める上で大事なものはモチベーションであり、そのための状況づくりに行政、民間の役割があると感じた。
- 「多様な個性が繋がる」からこそ、新たな可能性が生まれ、豊かな地域に発展していく。それがまさに計画に掲げている「共創」であり、そのためには民間の方々はもちろん、インフラ整備や各種支援策を行っている市町村、北海道、国の果たすべき役割は非常に大きい。